

\*\*\*\*\*

## 第 147 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

CXLVII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

\*\*\*\*\*

日時：2021 年 10 月 16 日（土） 15:00 – 17:00

場所：Zoom

担当者：村上 陽子

「機械翻訳とスペイン語教育(2)ー学生へのパイロット調査の報告と意見交換」

\* Fecha y hora: sábado, 16 de octubre de 2021, de 15:00 a 17:00

\* Lugar: Zoom

\* Ponente: Yoko Murakami

\* Tema: "Traducción automática y ELE (2): una charla sobre un estudio piloto a estudiantes e intercambio de opiniones".

\*\*\*\*\*

### 1. 概要

2021 年後半の統一テーマ「機械翻訳をスペイン語教育」について考え、体験し、話し合うワークショップの 2 回目であった。今回は筆者(村上陽子)が 2020 年 12 月～1 月に実施した学生を対象としたパイロット調査について報告を行ったあと、参加者がグループに分かれて、それぞれの実践や考えを共有した。以下に、パイロット調査報告とグループディスカッションについて概略を記す。ワークショップで使用した資料をこの文書とは別に添付する。

### 2. パイロット調査報告

機械翻訳のアプリが手軽に手に入り、日常生活において必要があれば簡単に使用できる環境が当たり前ようになってきており、機械翻訳がスペイン語を学ぶ学生によって使用されている状況がある。このような状況において、学生はいったいどこまで機械翻訳を使いこなせるのかを知りたいと考えたのが、本パイロット調査を行った動機である。筆者の本務校で 4 学期間スペイン語を学習した 5 人の学生協力者に行った実験内容と分析・考察の詳細については添付資料に記載されているので、そちらを参照していただくとして、パイロット調査実施の動機であった問いへの答えを導き出すための予備的な結論として、① 学生協力者は機械翻訳によるスペイン語文を分析することは出来るが、解釈のポイントがずれてしまう②語彙的レベルの誤りであれば修正することができる③機械翻訳によるスベ

イン語文に含まれる未習文法事項について独自に調べ、読み解くことが難しい、ということが言える。また、機械翻訳によるスペイン語文を分析することによって、自らの日本語文を見直し、より説明的でわかりやすい文へと修正していたことは、スペイン語学習とは直接関係しないものの、総合的な学びという点ではよい副産物であると考えられる。

### 3. グループディスカッション

11名の参加者を3つのグループに分け、以下の問いに対する各自の答えや授業と機械翻訳に関する意見を交換する時間を設けた。

- ① 学生に授業での機械翻訳使用について何か説明をしていますか？どんなことをどのタイミングで伝えていますか？
- ② 学生に機械翻訳を使わせる工夫・使わせない工夫をしていますか？しているとしたらどんなことですか？

各グループに共通して、「機械翻訳や翻訳サイト・アプリを使うことについては授業で何も伝えていない」「何のためにスペイン語を勉強するのか、学生に考えるように伝えている」「学生のスペイン語力と興味のある事柄を表す表現の間に乖離があるので、その乖離を埋めるには役立つこともあり禁止はしていないが、メリット・デメリットについて意識するように伝えている」という意見が出された。また、学生の日本語力の問題や辞書を持っていない・持っても参照しないという習慣の問題についても話題に上っていた。さらに、教員自身が機械翻訳の可能性やスペイン語教育を行う目的、外国語学習の喜びなどについて再考する時期に来ている、との意見もあった。

(報告者：村上陽子)